

佐久市五郎兵衛記念館運営委員会次第

日 時 令和元年8月9日(金)
午前10時～
場 所 五郎兵衛記念館 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 会長選出・職務代理指名

4 会議事項

(1) 平成30年度事業報告について

(2) 令和元年度事業計画(案)について

(3) その他

5 閉 会

平成30年度 佐久市五郎兵衛記念館 事業報告

1 主要な事業について

(1) 収蔵古文書の適正管理について

佐久市五郎兵衛記念館条例(以下、「条例」という。)第5条に規定する史料の保管、展示について、平成29年度から協力が得られている日本学術会議会員、日本アーカイブズ学会初代会長、学習院大学名誉教授(元学習院大学資料館長)高埜利彦氏の学習院大学資料館と佐久市施設の相互交流を一層進める方針から、昨年度に引き続き、30年10月21日、31年3月26日には当記念館から学習院大学へ、また令和元年8月5日には学習院大学資料館学芸員が2名、当記念館を訪問し、寄託古文書の管理状況については「適正である」との意見を頂いたほか、展示、翻刻作業についても情報交換を行うことができた。

(2) 史資料に関する講演会の開催について

条例第5条に規定する史資料に関する講演会、講習会及び研究会等を次のとおり開催することができた。

1) 企画展示会「絵図でたどる故郷と用水」

当記念館は、用水維持管理の必要上膨大な図面の収蔵に加え、周辺の村々から寄託された貴重な絵図資料も多数保管している。

文字で書かれた史料と違い、絵図は描写や色合い等に様々な工夫が凝らされ非常にたくさんの情報が詰められており、描かれた当時の社会情勢や生活・暮らしなどの多様な情報を直接「眼」からとらえることが出来ることから、市民向けに企画展示会を開催した。

- ・期 日 4月18日(土)から5月6日(金)まで
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室

2) 古文書を読む会

当記念館の社会貢献活動として、歴史の宝庫である古文書の読解力養成講座を、昨年に引き続き開設した。教材として市内に残された身近な古文書を活用することにより、行間から地域の祖先たちの苦心とその業績を詳しく知ることが出来た。

- ・期 日 毎月第木曜日 午後7時30分～9時
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室
- ・講 師 元佐久市五郎兵衛記念館長 春原邦江氏
- ・参加者 252名(年12回開催延べ受講者総数)

3) 古文書調査報告会

収蔵古文書調査の成果として刊行している古文書調査報告書の内容について、担

当した職員より、翻刻文書の時代背景、村の動きについて専門的な話を、分かり易く簡単に関心を持って頂ける内容で報告した。

- ・期 日 9月3日(日) 午前10時～12時
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室
- ・参加者 18名

4) 世界かんがい施設遺産登録記念特別講演会の開催

- ・演 題 「日本の治水史・4千年の系譜」
- ・講 師 富士常葉大学名誉教授・工学博士 竹林征三氏
- ・期 日 3月16日(土) 14:00～16:00
- ・場 所 佐久市交流文化館浅科 穂の香ホール
- ・聴講者 200名
- ・協 力 中華人民共和国四川省都江堰市政府・国際かんがい排水委員会
国内委員会・NPO 法人風土工学デザイン研究所・環境防災研究所

5) 企画展「世界かんがい排水施設遺産五郎兵衛用水」

昨年度の世界かんがい施設遺産登録では、中国三大用水うち古代中国秦の時代に開発された霊渠、また武田信玄が参考にしたとされる2,300年前から四川省17,000畝を潤す都江堰も登録された。これと同時に登録された五郎兵衛用水は、かんがい面積460畝、流域7kmだがこの小さな用水開発を世界が何故認めたかについて特集した。

- ・期 日 3月15日(金)～3月31日(日)
- ・場 所 五郎兵衛記念館 展示室 16日は移動展として穂の香ホール
- ・来館者 69名(記念館分)

(3) 古文書調査報告書の発行

- ・タイトル 「佐久市五郎兵衛記念館古文書調査報告書 第12集」
- ・内 容 五郎兵衛用水についての史料紹介他
- ・規格・部数 B5版50頁 300部

五か年計画で取り組んできた館収蔵古文書の内、用水の隧道、水路など用水施設の管理を記録した「五郎兵衛新田古文書目録」第3集(1)の「用水・普請」について、4年目の翻刻を計画通り終了し、報告書を刊行することが出来た。

(4) 学術的事業の推進について

1) 学習院大学資料館

刊行図書や行事の案内を交換し、3月26日学習院大学で開催された、即位を

控えた皇太子殿下御臨席の三笠宮彬子女王ご講演会に館長が出席した。また、学習院大学資料館からは、令和元年8月5日に学芸員の派遣と現地指導等が得られた。

2) 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

国際的な「比較民俗研究会」を主宰する佐野ゼミの研修会を受け入れた。また、神奈川大学で開催された「比較民俗研究会特別講演会」へ招待され、館長が出席した。

11月には、佐野教授の案内により大韓民国国立慶尚大学教授文学博士権海珠氏一行の来館を受け入れ、寄託されている相浜村文書から朝鮮通信使関係を紹介し、国際交流の推進が図れた。

3) 風土工学研究所及び環境防災研究所

世界かんがい施設遺産登録を機会に、風土工学研究所及び環境防災研究所を主宰し、建設環境、河川、砂防、ダム工学では国内第一人者の竹林征三博士の知遇が得られ、講演会、企画展展示のため学術的支援が受けられた。

特に都江堰と武田信玄については、貴重な関係資料の寄託が受けられた。

4) 渋沢栄一記念館・渋沢史料館

企画展「佐久の先人依田稼堂」を知った神奈川大学佐野教授より、依田稼堂と渋沢栄一、その恩師木内芳軒について深く研究するよう、公益財団法人渋沢栄一記念財団、渋沢記念館を紹介願うことができた。

5) 広島大学大学院教育学研究科熊原研究室・中山道 69 次資料館

当記念館収蔵文書が取り持つ縁で、広島大学熊原博康博士と博士のご学友「中山道 69 次資料館」岸本豊館長との間で、中山道とその自然地理学について学術連携が図れるようになった。

6) 尊躰寺と能楽狂言大蔵流「茂山千五郎家」

用水開発の大恩人大久保長安公の御寺山梨県甲府市尊躰寺から、長安出自の能楽狂言大蔵流家元を紹介願っているが、30年度も世界かんがい遺産登録について報告の機会が両者へ得られた。

7) 一般財団法人ダム技術センター

五郎兵衛翁の用いた技術解明のため、環境防災研究所竹林理事長の紹介で、ダム技術センター主席研究員川崎秀明博士が、五郎兵衛記念館と関わり合いを持っていただけるようになった。

8) 中山道下諏訪宿本陣「岩波家」

中山道に係る五郎兵衛記念館発行図書、清水岩夫・小林基芳両氏著作が基になり、岩波家と宿駅制度について親しく情報の交換が出来るようになった。

(9) 広報・宣伝・情報発信

1) 世界かんがい施設遺産登録の報道について、NHK、SBC、NBS ニュース番組で、ま

た「佐久ケーブルテレビ」では特別番組で放映がされた。新聞では、全国紙に何れも掲載され日本全国へ五郎兵衛用水の周知が図れた。

2) 長野放送・新潟放送開局50周年記念番組「千曲川・信濃川探訪」に館長が出演し、館の研究成果「千曲川往還橋」を長野、新潟両県へ知らせることができた。

3) TSB「夕方ゲット」佐久市特集に館長が出演し、世界かんがい施設遺産・五郎兵衛用水を広く県内へ紹介することができた。

4) 新たに、長野県外に聴取者が多いFM軽井沢で、五郎兵衛用水の特別放送が出来たことにより、県外から新たな来館者の増が得られた。

5) 佐久市観光協会発行情報誌で、世界かんがい施設遺産五郎兵衛用水の特集号の発行が出来た。

6) 春日温泉、市内道の駅と協調し宿泊と用水見学会、昼食・買い物利用など相互利用の推進を図った。

7) 長和町へ働きかけ、長和小学校行事の工場見学授業に併せ、五郎兵衛用水見学会と道の駅「ほっとばーくあさしな」での昼食利用を新たに開拓することが出来た。

また、立科町の道の駅「女神の里たてしな」と共催し、佐久三大用水、五郎兵衛・八重原・塩沢用水見学会と道の駅利用を開拓した。

8) 善光寺薬王院住職が五郎兵衛翁の妙香院住職を兼務していることから、信州善光寺のご尽力により、信州善光寺と世界かんがい遺産五郎兵衛用水、そしてユネスコ世界遺産官営富岡製糸場(開設者が市川五郎兵衛家関係者)の3点セットで観光開発をするようになった。

9) 世界遺産官営富岡製糸場の開設に関わった、埼玉県熊谷市の選定する市の偉人竹井澹如(市川五郎兵衛の末孫)の縁で、熊谷市から議員視察団の訪問を受けた。

10) 記念館寄託依田昴文書が記録する渋沢栄一と木内芳軒の生涯変わらない師弟関係から、深谷市と交流が図られるようになり、同市議会訪問団を受け入れた。

11) 佐久歴史の道案内人の会へ、五郎兵衛記念館が持っている、中山道を探索する人々への案内の際に再活用できる情報を提供し、会の発展を支援した。

例 明治30年の国内でも画期的な五郎兵衛用水を利用した下原水道

佐久の先人依田稼堂の門弟、小林康堂の甲斐塩山での活躍

12) 地域での協働と五郎兵衛米の発信のため、障がい者施設さくら福祉会が開発した「五郎兵衛米のおかゆ」の情報発信のため観光課、観光協会とPRに協力した。

2 世界かんがい施設遺産登録について

農林水産省本省及び国際かんがい排水委員会国内委員会の特別の支援により2019年8月カナダで開催の国際かんがい排水委員会理事会で登録が認められた。

(1) 申請書類個別特別指導

4月17日、6月20日、於・農水省本庁担当課

(2) 登録証授与式

10月9日奈良市「国際フォーラム春日」開催の国際かんがい排水委員会・国際灌漑農業委員会初の合同世界大会席上にて。

(3) 後発団体への、世界かんがい排水施設遺産登録の支援

茨城県及び北茨木市関係者が12月28日、3月16日の2日間、登録申請書作成の支援を得るため来館。岡山市はメール交換。

(4) 四川省都江堰市との連携

2019年度同時登録が「中国三大用水」であったことから、国内委員会より中華人民共和国駐日大使館文化担当官と連絡を持つよう助言され、記念講演会の協力や四川省都江堰市政府と友好の道が開けた。

令和元年度 佐久市五郎兵衛記念館 事業計画

1 主要な事業について

(1) 収蔵古文書の適正管理について

条例第5条に規定する収蔵古文書の適正管理のため、昨年度に引き続き学習院大学資料館と佐久市との相互交流を一層進める。

昨年度、佐久市から学習院大学資料館へ、また学習院大学資料館から専門的知見を伝えるため学芸員2名の派遣が得られたので、本年も引き続き相互交流し、大切な文化遺産古文書の適正管理に務める。

(2) 史資料に関する講演会等の開催について

条例第5条に規定する史資料に関する講演会、講習会及び研究会等を次のとおり開催する。

1) 古文書を読む会

記念館の社会貢献活動として、歴史の宝庫である古文書の読解力養成講座を、昨年に引き続き開設する。教材は、市内に残された身近な古文書を活用することにより、生きいきとした地域の祖先たちのありし日の姿を追う。

- ・期 日 毎月第木曜日 午後7時30分～9時
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室
- ・講 師 元佐久市五郎兵衛記念館館長 春原邦江氏

2) 古文書調査報告会

収蔵古文書調査の成果として刊行している古文書調査報告書の内容について、担当した職員から翻刻文書を詳しく分かり易く報告する。

- ・期 日 9月9日(日) 午前10時～12時
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室

(3) 企画展示会「協働・互恵に生きた佐久の先人達」

本州の中央部佐久平に生きた近世佐久の先人達が負担した「国役」「郡役」は、その佐久平が位置する地政学的な特色から、他地域と乖離し大変な困難とその足跡の大きさが特色である。

令和元年春期企画展として、協働・互恵に生きた佐久の祖先たちを収蔵古文書から紹介する。

- ・期 日 4月20日(土)から5月5日(日)まで
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室
- ・内 容 「千曲川往還橋・大池普請・相浜用水普請から」

(4) 企画展示会「時代の先端に生きる佐久の先人達」

日本の本格水道事業は明治 20 年横浜にはじまり、佐久平においては昭和 30 年代に漸く開発が始まったとされているが、最近発掘された記念館文書の中に、五郎兵衛新田では明治 30 年、本格水道が起業されていたという纏まった文書が発見されたことから、その内容について紹介する。

- ・期 日 3 月 17 日(火)から 3 月 27 日(金)まで
- ・場 所 五郎兵衛記念館 会議室
- ・内 容 「ライフラインは江戸のむかしから」

(5) 古文書調査報告書の発行

- ・タイトル 「佐久市五郎兵衛記念館古文書調査報告書 第 13 集」
- ・内 容 五郎兵衛記念館収蔵文書及び史料紹介他
- ・規格、部数 B5 版 50 頁 300 部

5 か年計画で取り組んできた館収蔵古文書「五郎兵衛新田古文書目録」第 3 集(1)の「用水・普請」について、5 年間で計画通り翻刻を終了したのでその報告書を刊行する。

(6) 条例に規定する史資料に関する調査研究の推進について

1) 学習院大学資料館

昨年度に引き続き、職員の相互訪問により、収蔵寄託文書保管の点検確認や古文書調査翻刻での情報の交換を進める。

2) 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

比較民俗学研究の国際的権威者の佐野賢治教授に協力し、佐野ゼミの海外からの留学生の研修、民具及び土俗信仰等の知見を共有する。

3) 風土工学研究所及び環境防災研究所

全容が解明していない五郎兵衛の用水開発における土木技術の国内伝播について、全国的展開をしている風土工学研究所の支援を受けて解明を進める。

4) 渋沢栄一記念館・渋沢史料館

館収蔵文書から、依田稼堂の恩師木内芳軒、渋沢栄一・尾高淳高兄弟、竹井澹如(市川万平)及び折茂健吾について、引き続き情報を共有する。

5) 広島大学大学院教育学研究科熊原研究室・中山道 69 次資料館

中山道の歴史についての熊原教授の識見を提供願ひ、記念館の運営の充実を図る。

6) 尊躰寺と能楽狂言大蔵流「茂山千五郎家」

現在、尊躰寺は、五郎兵衛記念館の山梨県での一大活動拠点であり、同寺の山梨県内での影響力も大きいことから大切に関係を構築していく。

また、能楽狂言大蔵流「茂山千五郎家」とは、大久保長安の事跡の追跡から関係を

同じく大切にしていく。

(7) 広報・宣伝・情報発信

- 1) 世界かんがい施設遺産登録を広く社会へ周知する。
- 2) 佐久市観光協会との連携を進める。
- 3) 春日温泉、市内道の駅と連携し、利用者の満足度の向上を図っていく。
- 4) 小学校行事の見学会の内容充実に努める。
- 5) 関係機関との緊密な関係を深める。
- 6) 佐久歴史の道案内人の会などへ情報の提供に努める。
- 7) 地産地消に資する「五郎兵エ米のおかゆ」などの開発及び情報発信に協力する。
- 8) 信州善光寺薬王院が取り組んでいる信州善光寺、世界かんがい遺産五郎兵衛用水、世界遺産富岡製糸場の集客事業の輪を広げていく。